

令和7年度今治ブランド戦略会議幹事会 議事録（要旨）

- 1 日時 令和7年5月13日（火）14：00～16：10
- 2 場所 JAおちいまばり本店3階会議室
- 3 出席者 29名
会長、副会長、幹事6名、監事 9名
事務局7名（産業部長、i. i. imabari!推進課6名）
関係各課等 13名
（副市長、産業政策局長、企画政策局長、交流振興局長、地域政策局長、
こども未来政策局長、政策調整官、日本航空株式会社西日本支社松山支店等）
- 4 議 事
議案第1号 令和7年度事業計画（案）について
議案第2号 令和7年度収支予算（案）について
- 5 報 告
 - ① 令和6年度株式会社今治あきない商社の事業成果について
 - ② 令和7年度株式会社今治・夢スポーツの取組みについて
 - ③ その他
 - ・日本航空株式会社の取組みについて
 - ・今治市ブランディングプラン（仮称）策定に向けて
 - ・その他

○会長挨拶

- ・今年を振り返ると、1月は、宝島社「田舎暮らしの本」2月号「2024年版住みたい田舎ベストランキング」（人口10万人以上20万人未満の市カテゴリー）において、4部門で3年連続1位に輝いた。最初の1年目は意図的に1位を取りにいったが、こうしたプライズが、それ以降の様々な取組みを通じ、市民の皆さんのシビックプライド醸成にも繋がっている。
- ・2月は市長選挙があった。委員の皆様には、公約資料をお配りさせていただいている。私が選挙を通して市民の皆さんにお伝えさせていただいたことがある。その1つは「脱・衰退」。全国1,700もの自治体があるが、今治市を含む地方都市は本当に衰退の一途を辿っているが、様々な取組みを通じ今治のプレゼンスを向上させ、本市が魅力的なまち、そしてビジネスチャンスがある地域だということを打ち出し、今治の未来の形となる「まちづくりの設計図」をしっかりと描くとともに、今治が全国的な衰退の流れから抜け出す「脱・衰退」の先駆けとなるよう取組み、「瀬戸内の世界都市」として、シビックプライドに溢れるまちへと成長させていきたいと考えている。
- ・本市は、人口14万6,000人の地方都市でありながら、世界に通じるコンテンツはたくさんある。世界の皆さんを魅了する今治タオル。農業・漁業における非常に豊かな食材。日本最大の海事都市。世界のサイクリストの聖地。FC今治。様々なコンテンツや取組みを通して、今治市が瀬戸内の世界都市となるようコミットさせていきたい。

- ・そして、1月にもう一度戻らせていただくが、合併20周年の記念事業。20年前には12の地域があった。1つの大家族が誕生して20年。記念事業期間中は、すべての地域でどのような地域資源があり、どんな人が住み、どんな文化があるのか等を掘り下げるような取組みも重ねた。今後は、協働が取組みのベースに入らないといけないと思うし、間違いなく次の20年に向けて良い取組みになったと思っている。
- ・3月は、ふるさと納税額が発表された。今日も出席いただいているが、株式会社今治あきない商社が発足して2年近く経つが、ふるさと納税額について、以前は10億円に満たない状況だったが阿部社長が民間の発想と市民の感覚、そして、皆さんを巻き込んでの様々なプロモーション活動の結果、昨年は30億円に届く額になった。
- ・そして新年度！という時期に起こったのが、3月23日発災の林野火災。今日ご出席いただいている皆さんにおかれましても、従業員をはじめ市民の生命や財産を守るため一生懸命活動してくださいましたこと、心から感謝申し上げます。加えて、財産を失った方も多数いらっしゃるが、市内外から本当に多くの皆様からお見舞をいただいております、被災された方の生活再建にも充てていけるような検討も続けている。
- ・新年度に入り、先ほど産業部長が事務局を代表して挨拶したが、本日は副市長にも出席いただいている。また、皆様から見て右側に座っている前総合政策部長と前産業部長は、部局を横断するセクション「壁突破推進本部」の地方創生と今治ブランド推進の政策推進官として、これまでの豊かな経験を活かして取り組んでいただくので、ぜひ委員の皆さんにもご認識をいただきたい。
- ・資料をお配りしているが、先日、本市が愛媛県初の「脱炭素先行地域」に選定いただいた。選定に向けたハードルがかなり高い事業であるが、今回、愛媛県の絶大なるバックアップをいただき選んでいただけた。唯一無二の地域資源「しまなみ海道」と「今治タオル」という2つの地域資源をソフト・ハード両面から脱炭素化を推進し、付加価値を加えることで地域課題の解決と地域活性化を図る。しまなみ地域にはルートを示すブルーラインが敷設をされており、ライン沿線の家屋、或いは公共建築物等の屋根などに太陽光パネル設置、または蓄電池増設するための支援を行うことにより、電気料金の負担軽減を図っていく。また、ブルーラインは尾道駅前から今治駅前まで敷設されている。サイクリング施策ではJR今駅前にレンタサイクルターミナルがある。近年では、E-BIKE（電動スポーツタイプの自転車）の貸出しが増えており、ゼロカーボンサイクリングという切り口で取り組んでみたらどうかという話もある。
- ・また、JAさんならばスマート農業のさらなる推進。脱炭素の取組みによりできた商品ということで付加価値も上がるのではないかと思います。
- ・そしてもう1つの切り口は今治タオル。現在、原材料等も高騰しており大変だというふうなお話も聞いているのでこの事業も活用しながら今治タオル工業組合、繊維染色工業組合などの企業において脱炭素化しながら付加価値の高い製品づくりに取り組んでいただきたい。
- ・愛媛県では2026年に全国植樹祭。2027年には世界最大の自転車国際会議「Velo-city」、2028年には国民文化祭が開催され県内・市内に大勢の皆さんがやってくる。それらに向けても今治ブランドをどんどん高めていく時期であると思う。
- ・昨日、新聞を読んでいたら、ご当地ナンバープレートの申請条件が大幅に緩和されたという記事を見た。しまなみが良いのか、今治が良いのかは分かりませんが、より良いナンバープレートになるような検討を担当課に指示したところである。
- ・様々な取組みを、今年度もさせていただこうと思う。今日は情報共有も含めながら、皆さんと議論ができたかなと思っているので、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、少し長

くなりましたが冒頭のご挨拶とさせていただきます。

○議案第1号及び第2号 令和7年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

※両議案が関連しているため一括して事務局から説明し審議

（事務局）

- ・令和7年度の「事業方針」説明。瀬戸内クロスポイント構想の実現に向け、ふるさと納税を核とした今治地域の稼ぐ力と実需の創出及び多種多様な今治ファン（IMABALINA）獲得による関係人口の獲得を目指すとともに、本市の認知度及び情報接触度の向上に向けた情報発信を戦略的に行うことにより、情報価値の最大化を図る。
- ・事業内容は、大きく3つの事業に分け、会議運営費 915 千円、デジタルプロモーション 16,239 千円、リアルプロモーション 8,274 千円の総事業費 25,428 千円。国の交付金 1/2 を充当する。また、昨年度から当会議事業の柱として「デジタル」と「リアル」の事業で取り組んでいるが、今年度もこの柱を太くできるよう、引き続き両輪で取り組む。

【デジタルプロモーションについて】

- ・大きく分けて、商品の販路拡大や誘客・移住促進に向け SNS を活用した取り組みを行う「デジタルプロモーション事業」。既存のデジタルコミュニティへの参加者自らが今治情報の発信者になってもらう「デジタル関係人口活性化事業」。未来を担う若者視点で企業紹介映像を制作・配信する「デジタルネイティブ世代協働推進事業」がある。

（デジタルプロモーション事業）

- ・インターネット全体の情報量はこの 20 年で 6,000 倍以上になったと言われており、この情報過多時代のなか、本市の魅力的な情報が埋もれているという課題を解決するため、この事業を通じ、本市の魅力的な情報の「認知度」と「情報接触度」を高め、商品の販路拡大と誘客・移住促進に繋げる。また、情報の入手手段も近年は SNS が中心。世の中に溢れている情報の中から勝ち抜き、今治情報に触れてもらう入り口を作らなければ、良いコンテンツであっても知られることはなく、また、情報の押し付けは嫌われる傾向から、ユーザーに情報を刺していくためには、「共感いただくこと」が重要。
- ・昨年の7月に本事業で開設した SNS アカウントは、情報に対する認知・共感の壁を低くし、多くのユーザーに共感してもらえ、かつ最高の誉め言葉でもある「なんかいいな」を用いたアカウント名とし、約半年で総フォロワー7,000 名超、主要な総投稿数 159 本で 320 万回再生の運用を行った。（リール動画の一部等を再生）
- ・今年度も動画のトレンドや SNS のアルゴリズム、サイト内分析を行いながら、ユーザーに刺さる発信を行う。
- ・令和6年度は、SNS アカウント等の土台作りの年だった。こちら側から発信するのみで、例えば、商品の動画で興味関心を持っていただいたユーザーが、その商品を EC サイトから購入したい！となった場合、常時その EC サイトへ直接繋げることができない状況。よって、今年度は、発信した情報に関連する EC サイトや各種情報ページへユーザーを誘導できるよう、包括的なポータルサイトを構築する。
- ・イメージとして砂時計と日本地図で図示しておりますが、「なんかいいな、今治。」は今治情報に触れていただく入口として位置付けており、商品販売を砂時計の図で表現すると、上の部分が今治に興味関心を持ってくれた方、下の部分が実際に購入してくれた方としますと、くびれの部分

を広げ、交通整理を行うことで落ちてくる砂は多くなり、このくびれの部分がポータルサイトということ。資料の中に「POINTのアイコン」をつけているものが後ほど皆様にご意見を賜りたいと考えているもの。

- ・ポータルサイトは行政目線ではなく、ユーザー目線で今治の情報収集が最適化されたサイトとして構築したいと考えており、サイトツリー（案）をお示ししている。産品やふるさと納税情報をはじめ、観光、移住に関する既存のページへ適切かつスムーズに届くような交通整理をしたいと考えており、このサイトの内容について、こんなものも入れて欲しいなどのご意見を後ほどいただきたい。

(デジタル関係人口活性化事業)

- ・NFTを活用し参画いただいている約3,000名のデジタル関係人口の方々に今治情報を発信してもらう事業。市内の企業がデジタル人材の採用募集を行う際のリクルーティングにも生かせるよう、市内企業とも連携しながら取り組む。

【リアルプロモーションについて】

- ・大きく5つある。「食」や「子育て」に関する事業、そして今の旬な今治情報をお届けする「イマ推し！今治事業」、ブランドイメージ発信、IMABALINA獲得促進の事業。

(食を通じたプロモーション事業)

- ・「おにぎりプロジェクト」、「今治版ローカル・ガストロノミー推進事業」、「ランチパック」があり、ここでは、今年度から取り組む今治版ローカル・ガストロノミー事業について説明。
- ・そもそもローカル・ガストロノミーはフランス発祥のガストロノミーを日本人が提唱した概念で、地域の風土、歴史、文化を料理で表現し、食を通じて地域の魅力を伝えていく考え方。
- ・今治版ローカル・ガストロノミーの取組みの柱となるイメージ案としては、「第一次産業の活性化」、「農林水産物の付加価値の向上」、「新たな食のコンテンツ開発」、「食を通じた地域ブランドの強化」。今治版としての取組みをスタートするため、その定義や基準のたたき台をお示ししているが、後ほどご意見をいただきたい。

(子育て魅力発信事業)

- ・出産前のプレママ・プレパパ向けに生まれてくる赤ちゃんを安心して迎えるためのセミナーを9月と3月に開催するもの。市民の皆様へのふるさと納税還元事業として今治あきない商社、ミキハウス様と連携し、子育てに関する協定を結ばせていただいているJAおちいまばり様とイオンモール様の協力もいただきながら開催するもの。特に、JA様には、参加者全員に野菜の詰め合わせセットを提供いただいておりますこと、この場をお借りし御礼申し上げる。そして、今年度の提供もよろしく願います。
- ・本市の子育て情報の魅力発信として、市内の改修された公園などの情報も随時動画化し紹介していることをご報告。

(上記以外のリアルプロモーション事業)

- ・各種PRツール等を制作する「ブランドイメージ発信事業」や今治をこよなく愛するファンを獲得する事業、そして、今の旬な今治情報をお届けする「イマ推し！今治事業」がある。
- ・特に、「イマ推し！今治事業」で連携する催事については、お手元にチラシをお配りしているが、11月11日に東京、10月1日に初開催する大阪での「いまばりの集い」などの各種催事に加え、現在検討中だが、この集いで繋がっている首都圏在住の方々と共に、FC今治のアウェイ戦を

応援し、併せて一緒に今治情報も PR するような取組みもできないものかと考えている。

- ・FC 今治さんはパートナー企業様向けに都内店舗において関東アウェイ観戦会も実施されているが、そうした取組みも参考にさせていただきながら、そして、可能な部分で連携しながら取組みを検討していきたい。
- ・また、「イマ推し！今治事業」に関し、赤枠で囲っている「駅前 Bari-ショップ」について、以前より、観光客やビジネスで来市された方々から今治駅周辺でお土産物の購入場所がないという声もあるなか、現在、地域産品販売とふるさと納税 PR の拠点を新設するための場所と機能について検討している。
- ・場所の選定につきましては、実際に開業した際のお客様動線や動向を考慮することが重要。現時点では、JR 今治駅前の観光インフォメーションスペースを有効活用する案が有力ではないかと考えている。
- ・店舗イメージとしては、商品が沢山並んだ所謂お土産物屋ではなく、例えば、JR 横浜駅構内の体験型ショールームのように、商品は EC サイトから購入、そしてふるさと納税の PR もできたらと考えているが、後ほど、皆様から場所と機能についてご意見を頂きたい。

【各種催事情報】

- ・来年度以降の各種催事の情報。来年（2026 年）度は全国植樹祭、2027 年は自転車国際会議「Velo-city」、2028 年は国民文化祭などが開催され、県内及び本市にも多くの関係者が来訪される見込み。こうした催事情報にもアンテナを張りながら動向を注視し、今治の情報をお届けしていく準備をしていく予定。関係各位とも連携しながら取り組ませていただきたい。

事務局説明は以上。

質疑応答概要

【デジタルプロモーション事業のポータルサイトについて】

（A 委員）

目的により建付けが変わると思うが、このサイトの目的は何か。

（事務局）

メインは産品の販路拡大。ただし、その産品を作っている今治とはこんな街ということで、今治の観光情報や暮らし情報なども入れることにより、誘客や移住促進等にも繋げていきたい。また、行政・団体で乱立しているサイトへの適切な誘導役として位置付けたい。（SNS 運用も同様）

既存の SNS アカウントも行っているが、今年度構築するポータルサイトも、都度のサイト内分析・改善を繰り返しながら、より良い形にしていきたい。

（A 委員）

外向けの情報も大事だが、実際に来市された方向けの視点も欲しい。例えば、この日にこの催事が行われているなどの情報も一目でわかるような仕掛けがあれば。

（事務局）

ホームページを作るわけではなく、当ポータルサイトは既存の市内数多の WEB サイトへの繋げ役。既存サイトと連携させ、あとは見せ方が重要だと思っている。ユーザーを適切に誘導できるようなユーザー目線でのポータルサイトにしていきたい。できれば 3 クリック以内で欲しい情報サイトに届く形が理想。

(B委員)

ポータルサイトを含め、この事業は素晴らしい。高齢の方の情報入手手段の多くはテレビ。若者などはSNSが中心になってきているが、SNSやサイトに誘導するだけではダメ。サイトを訪れるユーザーへのメリットも出していく必要があるのではないか。その点についても考慮しながら建付けを考えていくべきではないか。

(C委員)

ポータルサイトの中身としては良いと思う。今治情報と言えばこのサイトと言わしめるように成長させていくことはもちろんだが、お気に入りのマイページ機能があると良いのではないか。

移住の観点で言えば、多様な働き方の発信（おてつたび）もできるのではないか。働くという観 points のツリーも作ってみてはどうか。

(D委員)

当社も苦心しながらサイト運用をしている。砂時計の説明が分かりやすかった。ツリーはこれで良いと思うが、トップページも大切。なんかいいなと思えるように、そしてクリックして他ページに飛んだあとでもまた戻りたくなるようなトップページづくりが大事。

個々のランディングページ（各社、各団体のページ）も重要だが、その個々のページへ誘導していくこのポータルサイトに来た人が、色んなところに行ってみたいと思ってもらえるようなサイトにすることが大事。

(E委員)

「なんかいいな、今治。」はキャッチーが良い。今治市民の視点で今治市の各種情報はLINE登録しているので、だいたい情報はキャッチできる。ポータルサイトを見に来て、有益な情報が集まるサイトであれば良い。検索者（ユーザー）が集まるのは、必要とされている、または需要があるときである。

(副市長)

ポータルサイトには統一感が欲しいと思っている。公約のなかで、「瀬戸内の世界都市」と言っていることから、本市が世界に誇れる5つのコンテンツを前面（トップページ）に出した方が良い。そこから様々なサイトに誘導していく見せ方。

⇒世界最大の海事都市／今治タオル／サイクリストの聖地しまなみ海道／FC今治／丹下健三建築（事務局）

いただいた様々なご意見を参考にしながら調整して参りたい。なお、サイトが実際に稼働したあとでも、随時追加・調整は可能。サイト運用開始後でも構わないので随時ご意見をいただきたい。

【今治版ローカル・ガストロノミーについて】

(会長)

12地域にある食材や資源も掛け合わせてもらいたいし、インバウンド等への対応も考えて欲しい。

(F委員)

ガストロノミー視点の取組みは、既に農業団体等も行っているし動いている。改めて定義や基準を！と言われると難しい。市内の飲食店の多くは地元産の食材を使っているところが多いし、ローカル・ガストロノミー的な取組みを行っているお店も当然のようにある。

また、食材を生産する側からすれば、食材の行先の多くが決まっており、新たな提供と言われると提供するモノがないということが苦しい。

実施するのであれば食のブランド力向上に繋がり、生産者やお店等の所得向上に繋がるものでないといけない。

(E委員)

ガストロノミーという言葉から、アッパー層を狙っていくものと思っていた。いわゆる美食がガストロノミーという観点だが、今治版とするならば、今治焼豚玉子飯もガストロノミーでも良いのではないかという視点もある。いろんな地域があり、それぞれの色も違うので、地産地消と地域の背景（バックヤード）が分かるメニューを作るとか。

例えば、市内の駄菓子屋さんが100円で売っている今治ならではの菓子なども、地域に根付いたものであり、そんなものも取り上げるのが面白いかもしれない。そのようなモノを巡るサイクリングツアーなども観光視点では面白いかもしれない。ただ、どこの地域も今や地産地消は当たり前で、他地域とどう差別化できるかが需要。

インバウンド視点で、日本でやりたいことNo.1は「日本食」。次に「地域の伝統文化等の体験」。食で言えば、地域の伝統料理と一緒に作るという体験も好まれる。ただし、一気に誘客できるものではないので、ステップ1、ステップ2・・・とアクションプランを立て、少しずつ増やしていき、それがプロモーションと紐づいている形が良いのかなと。

(G委員)

日本国内に、地域ならではの美味しいものはたくさんある。そういう意味でも、他地域と差別化する今治版という切り口は必要。今治独自の美味しいものをピックアップし、観光に繋げていくべきである。

(会長)

美食倶楽部的な高貴なものはイメージしていない。地域ならではの文化や歴史を食に表現する手法により打ち出していくことが良いのではないかと考えており、そこまで難しい取組みではないと思っている。ローカル・ガストロノミーという切り口で打ち出し、観光誘客や生産者等の所得向上に繋がりたいという想い。

ここで皆様にお許しをいただき、本日は、JAL 松山支店長様もお越しなので、全国のこういう取組みがあるとか、食に関する取組みに関して所感があればご意見をいただきたい。

(JAL 松山支店長)

全国様々な土地に行き人に合う。食の取組みを行う場合、その土地の人に聞くことが多い。これがあるよと教えてくれる人もいれば、特に何もないんだよねという人もいるが、やはり人。その土地に住む人との交流を含めて、人を通じて食文化は伝わっていくものと考えたら、人と人との繋がりが進んでいくと良いと思う。

(H委員)

今治の商品を都会にもっていくと喜ばれるものもあり、過去に様々な販路開拓事業に取り組み反応が良かったことも経験している。例えば、ラムリンのような攻めた商品でもすごく売れた。まだまだ埋もれている魅力的な商品もあるので、影響力の強い場所に売り込んでいくのも手かと思う。あと、いろんな地域に行っていると、例えば、地域食材を使っているものには市とか団体のお墨付きのマークとかを付与し、販路開拓の一助とする制度を設けることで、事業者さんにもメリットが生まれてくるのではないかと思います。

(会長)

事務局で今年度予定しているローカル・ガストロノミー関連事業を今一度ざっくり説明いただけますか。

(事務局)

今年度は、現時点、この方向で実施していくという固まったものはありませんが、先ほど、皆様からいただきましたご意見も踏まえ方向性を調整し、キックオフに向けて取組んで参りたい。

JAさんも既に同じような取組みは進められており、市内店舗においてもガストロノミー観点で取組まれている方も既にいらっしゃる。観光視点のご意見もいただきました。このことから、まとめ役の我々i. i. imabari!推進課のみならず、中心となる農林水産課や観光課、サイクルシティ推進課をはじめ関係事業者などとも協議・連携しながら方向性を定め、今年度はその取組みのキックオフという形で、関係者が集まった会のようなものを開催できればと考えている。

このことから、そのキックオフに向けて委員の皆様には、今治版として実施していくための定義や条件等について、本日はご意見をいただきたいと考えている。

(会長)

もともと今治市の地域おこし協力隊として活動されたMさんという方が、現在は大島（宮窪）に隈研吾さん設計の店舗でフレンチレストラン「フェヌア」を開業した。彼が作る料理は、市内・島内の食材を中心に作るというパフォーマンスをされている。例えば、地域の食材を通してこういうものを表現するというのを、Mさんを通じて市内の料理人にお伝えしていくというイメージなのかなと思う。また、学校給食についても、同じような展開をしていきたいなと思っており、栄養士の皆様にも学んでいただければと考えている。

H委員がお話くださったのは、商品の6次化で新しいものを作って売っていくということだが、今回の取組みは、今治市に来てもらって、食を通して今治を知ってもらい楽しんでもらうという仕掛けができればと思っている。このことから、スモールスタートで始めたいと考えているので、関係各位には引き続きご協力を賜りたい。

【駅前 Bari-ショップ（仮称）について】

(会長)

事務局も説明したが、全国クラスの大会が開催されたとき、イベント開催時やビジネスで他地域からお越しになった方々から、例えば、イベントで食べた・飲んだものを、今治市を発つ際にお土産で買って帰りたいとなった際、まとまった売り場がないということをよく言われる。まるごと今治を売っていくという店舗が交通結節点のある中心市街地に無いのが現状で、なんとか実現したいと思っている。場所や機能、中身などについて、皆さんからご意見をいただきたい。

(A委員)

今治駅に降り立った時、バス停も少し向こう側にあるし、タクシーで移動しようかという感覚になる。また、タクシーで移動しようにも、駅を降りてすぐ、どこに何があって、今日市内で何が行われているかという情報が分からない。例えば八木酒造部さんの酒蔵に行けば酒は買えるが、どのあたりにあるかななどの情報が一目でわかるものがない。市内の旬な情報も一目でリアルタイムに入手できるものが駅の改札を出てすぐの場所にあれば良い。マルシェについても14時までなので、その時間に合わせたバス時刻情報やそこからどういけば八木酒造部さんに行けるとか。観光インフォメーションも少し歩けばあるが、その場所すら初めて来た人は分からないので、やはり駅降りてすぐの場所に、リアルタイムにわかる情報板のようなものがあれば良い。

ここで買えるというよりは、ここに行けば買えるということが分かるような機能も駅には持たせたい。

(C委員)

ご提案の場所は良いと思う。スペースの有効活用を。また、飲食店もあれば、その店舗のメニューで使われている商品もすぐにも買えるような形になっていれば、ユーザーも購入意欲が沸くのかなど。

ふるさと納税についても、そこで触れて、見て、という形になっていれば良いかなど。

インフォメーション的な話だが、昨年、内子町で実証事業をされていた。田舎の店は行ってみたら休みとか、満員で入れない等の状況が多いことから、仕組みは知り得てなく店側の負担量は分かりませんが、スマホでリアルタイムに店内の状況が分かるもの（今店内に2名居るとかの情報）。こういう情報もリアルタイムにわかるようなものがあれば便利。

(F委員)

駅前での取組みは良いことだと思う。ただし、ここに今治の全てのモノを置くというのは難しい。A委員も言われていたが、駅前Bari-ショップはモノもあるが、あくまでここは「情報発信拠点」にして、市内の様々な場所を周遊してもらいたい。そのために一目でリアルタイムな市内の情報がわかるようなインフォメーション機能を置き、併せて限りはあるだろうが特産品も売っている、ふるさと納税もPRしているという形が理想かと。

(会長)

2027年に自転車国際会議「Velo-city」が開催され、今治市にも世界各地からお客様が来訪される。それまでに、駅前まで続いてきている市道「北宝来近見線」の道路構造の再配分をする工事も完了する。しまなみ海道はナショナルサイクルルートにも指定されており、そのルートは尾道駅前から今治駅前。糸山から今治駅前までのルートの走行環境整備により、安心安全に市中心部の駅までサイクリストを引き込むことができれば、ここから自転車或いは新しいモビリティで市内周遊に繋げていけるのではないかと考えている。委員のご意見にもあるように、市内各所に繋げていくための拠点としては、やはり場所はこの場所が良いのかなと思う。

(G委員)

今治を発つ際に、買い忘れたものを最後に買うことができるような場所としても良いかなど。

先日、タオルフェアを開催していたが、マルシェにも行きたいという方がいて、その方がマルシェは14時までと知らずに慌てて港へ行かれたということがあった。なので、リアルタイムの情報発信は重要であるが、多少はお土産等も買えるようなショップになれば良い。

(D委員)

WEBを通じて獲得できる情報については、WEBを主に利用し情報収集する方は充分なのかなど。

今治に来た人、そして今治から発つ人が、今治に来て良かったなと思っていただくことが重要。そのためには、やはり「人」が大事。ショップも無人ではなく、旅行者が人から受けたおもてなしや情報から今治旅が始まったというような思い出に残らなければ再訪もないわけで、人が大事なのかなど。結局、WEBで得られる情報を得たい人（観光客等）はこの場所（ショップ）には来ないので、ここに来て、何を得られるかとなると「人との触れ合い」、そして触れ合いを通じて今治を知ることだと思う。よって、ショップで対応する人の教育が大事だと思う。

(E委員)

既存の観光インフォメーションには、島しょ部及び市内の主要な観光施設の資料は揃っている。また英語等で観光案内可能な職員も配置されている。当施設を利用される観光客の多くがサイクリストなので、サイクリスト向けのサービスの案内も行っている。

もともと、今治側のレンタサイクルは中央ターミナル（サンライズ糸山）の貸出が多かったが、この4月単月にはなるが今治駅前ターミナルの貸出数の方が多くなったと聞いた。要因は、交通結節

点かつ民間施設のご理解も得られ、駅前ターミナルでE-BIKEやアシスト自転車の貸出を開始したということかもしれない。これはゲームチェンジャーで、この駅前が今治側のレンタサイクル拠点として今後どんどん育っていくと思う。また、今治発のレンタサイクル貸出の利用者属性が、4月単月であるがインバウンドが40%を超えたという情報である。尾道側でも60%とのこと。ということは、半分の方がインバウンド(海外)の方ということ。インバウンドの方に刺さるような仕掛けをしなくてはならない。

例えばサブスクで、日本からフランスに帰ったら、1年間に4回、今治のお土産や特産品が送られてくるというようなふるさと納税なども考えることができないか。

また、しまなみ海道を自転車で走り、途中で食べたものが美味しかった。ただ、その時は買う余裕がなかった。という人が最後にここでECサイト紹介または直接購入できるようなサービスもできれば。(インバウンドはクレジット必須)

(関係課職員)

今治ファンを獲得するうえで、事務局も説明していたが、「共感」していただき、興味・関心、そして今治をもっと見たいと思っていただくことがシティプロモーションとしては大事。ただし、共感も様々な形があると思う。独りよがりの共感ではなく、食を通じてとか人と接してとか、「今治ならではの共感」を作っていくことも、この駅前Bari-ショップにも求められるのかなと思う。

(B委員)

最近、朝、昼、夜と駅周辺の動向を見ることが多くなった。目視による肌感覚ではあるが、平日の朝・夕は、駅・バス停共に学生が多い。ビジネスマンはバス停利用者が多い。インバウンドは平日の朝・夕が多い。中心部にはホテルも増えてきた。ただし、駅周辺に飲食店が少ないから飯難民が多い。駅前Bari-ショップのオープンスペースをもっと有効に使えないか。夏はビアガーデン。尾道から自転車で走って来た人向けの足湯とか。こうした取組み情報を近隣ホテルとも連動させ、引き込むのも一手。インバウンド客の興味を惹く仕掛けを行い、SNS発信してもらおう。

駅周辺のニーズは肌感覚だが増えつつあると思っている。インパクトのあることを行い、それを自ら発信してもらえよう流れを作りたい。その場所として駅は良いと思う。

(副市長)

駅前が交通の拠点。そこからFC今治の応援にいくとか市内を周遊するとか。まだ計画段階ではあるが、駅周辺の配置を見直し、近い将来、バス停も駅側に近づけるようなことも考えている。

JRの利用者目線で、初めて今治に来た方が改札を出て、右に行けば良いのか左に行けば良いのか分からないという話もよくある。そして、駅舎を出ても、どこに何があるか、目を引く案内看板のようなものもない。バス乗り場はどこ? どうやって利用するの?ということが知っている人は良いが初めての方は非常に分かりにくい。駅舎出てすぐのところに、目立つようなインフォメーションやしまなみ海道・とびしま海道含めた市全体図、バスはこっち、レンタサイクルはこっち、主要な観光地はこっち、とった様々なインフォメーション、案内版、機能があり、かつ、交通の結節点でもあり、サイクリストの拠点にもなりといった、あらゆるものが集まってくるような施設になれば。

ただし、そういう意味では、様々な機能が集約された施設となる可能性があることから、それに向けた備えも今からしておく必要がある。

(事務局)

単にモノを売るだけでなく、しっかりと多機能で情報を流していくということが求められる。

例えば、市内の限定会場にライブカメラをつけて、リアルタイムの情報も流すことも案として考えられる。委員各位からいただいたご意見を参考にしながら検討して参りたい。

(会長)

様々なご意見を頂戴し感謝。お諮りをさせていただく。

(一同)

承認。

○報告

① 令和6年度株式会社今治あきない商社の事業成果について

当社から、令和6年度事業報告及び令和7年度の取組み概要の説明。

② 令和7年度株式会社今治. 夢スポーツの取組みについて

当社から、令和7年度の取組み概要の説明。

③ 日本航空株式会社の取組みについて

松山支店から、これまでの今治市に関連する取組み及び今後の取組み概要の説明。

④ その他

- ・今治市ブランディングプラン（仮称）策定に向けて
- ・10/1 大阪、11/11 東京で開催する「いまばりの集い2025」について
- ・10/11 C&K 全国 TOUR2025 今治公演について

(会長)

以上で議事は全て終了。ここ数年で、全く違う、活発な会議になってきた。改めて、委員の皆様へ感謝。

1点ご報告。2年に一度、共用中の高速道路本線を活用した国際サイクリング大会を開催しているが、その裏年のなる今年、今治の陸地部を舞台とした自転車イベントを開催する予定。初心者から中・上級者までが楽しめるイベントにできるよう現在計画中。まずはスモールスタートになると思うが、皆さんのバックアップもよろしく願います。

16時10分閉会